

ころばん体操出前講座活動報告(平成29年11月27日)

【講話】

- 1.「いつまでも自宅で暮らすために」 地域包括支援センター保健師 久保小百合
- 2.「がんばりすぎない介護を応援します」～退院支援について～
在宅医療・介護連携推進事業コーディネーター 南新敦子

参加者の声

平成29年11月14日(火)野元公民館 13:30～15:00(参加者32名)

出来るだけ自宅で暮らし続けたい方がほとんどでした。皆さんが深くうなづいていました。これから認知症に対しての不安があるとの話ができました。

「ずいぶん前に他県で姑を自宅で数年介護していました。本当に大変な思いをしました。訪問看護等を利用して助かっていました。介護する家族は期限が見えないので精神的な不安や、負担が大きいと思います。今日の話聞いて昔の事を思い出してしまいました。」

「介護を一人で抱え込むのはとても負担が大きいと思います。」出来るだけ介護のサービスが受けられたらいいと思います。

(32名の参加があり大勢の方に話を聞いて頂きました。

まだまだ実感が無いとの方が大半ではありましたが、介護を経験された方もあり、具体的なお話も聞かせていただきました。)

平成29年11月17日(金)中原公民館 9:00～11:00(参加者7名)

「家が一番じゃ・・・ 家より 良かところは無いですよ」

「そりゃポッキリ死ねたらいいです。それが理想です。」・・・皆さんが肯かれました。

「健康寿命はもうとっくに過ぎてますよ。田舎と都会は違うみんな農業をしているからね・・・」

「認知症はとっても心配です。いろんな事を忘れることが、本当に不安です。」

「長い間夫を自宅で介護してきました。その頃は何も知らなくて一人で排泄の世話もしていました。

5年前に夫は亡くなりました。今は地域の人とここで体操をしたり、楽しく生活しています。」

施設は100人300人待ちと依然云われたことがあります。この先自分たちは施設に入れるのか、など子供がいないので。これから先の事は心配になります。

(7名の参加があり、家族的は雰囲気の中で話を聞いて頂きました。話を聞きながら、自分の介護の話や、施設入所についての不安など、日頃の不安や、思いをそれぞれ聞かせて頂きました)



野元公民館



中原公民館